

こんにちは ブラインテックです

第70回 日本歯科大学生命歯学部図書館 2012年12月

今回は東京都千代田区にある日本歯科大学にお伺いしました。JR 飯田橋駅から徒歩5分程のキャンパス周辺は学校も多く、活気あふれる街です。本日は図書課長の嶋崎ひとみ様にお話をお聞きしました。

——まずは学校の特徴をお伺いできますか。

明治40（1907）年6月、中原市五郎により創立された私立共立歯科医学校が本校の始まりです。この学校は公立私立歯科医学校指定規則に基づくわが国最初の歯科医学校として創立されました。その後、私立日本歯科医学校、日本歯科医学専門学校と経て、戦後、旧制日本歯科大学に昇格し、昭和27（1952）年に新制大学となりました。昨年、創立105周年を迎えることができました。

東京と新潟の2つのキャンパスに、それぞれ生命歯学部・生命歯学研究科・短期大学があり、新潟には医の博物館も擁しています。図書館もそれぞれのキャンパスに独立して設立されています。

本校は日本の国公私立歯科大学の中で最古の歴史を持つ、世界最大の歯科大学であると自負しています。



——大変歴史のある学校ですね。キャンパスの入口を入ってすぐが図書館と利用しやすい立地ですね。入口正面の、壁一面の配架された本が圧巻です。

東京キャンパスにあるこの図書館は、創立100周年記念として2006年6月に現在の場所にオープンしました。

図書館入口には、創立者・中原市五郎の銘文「世に立つに必要なことは、目的と見通しと努力の三つである」が掲げてあります。

入口を入ると左右に長く広がる、細長い形の建物です。この1階、中2階、2階と地下フロアを図書館で使用しています。1階中央部分の天井は2階までの吹き抜けとなっており、入り口の正面の壁は吹き抜けを利用して天井までの書架となっています。長辺に沿って設置された高く長いこの「本の壁」は、入口からの距離が短いため、本が迫ってくるような印象を与えるように計算して取りつけました。一見使いにくいように思われる、細長いフロアの形を逆手に取った設計です。また、棚板の色や質感、照明などは職員で検討し、明るすぎずに落ち着いた雰囲気を目指しました。



——各フロアの特徴について教えてください。

約13万冊の蔵書のうち、半数近くは雑誌で、バックナンバーは製本して地下のフロアに配架しています。地下フロアはグレーに学校カラーである青と黄色を効かせた電動書架で、1Fや2Fの落ち着いた空間とは異なり、無機質な印象にしています。1Fには、専門書と雑誌、2Fにはキャレルデスクと自然科学・一般書などが配架されています。

雑誌はあえて雑誌用の棚を使わず、書棚にタイトル毎に平置きしています。これは雑誌の表紙も情報の一つであるので利用者に見せたいと考えているためです。雑誌用の棚として販売されている棚は奥行きがあること、雑誌のサイズによっては傷みやすいこともあり、あえて使用しませんでした。

このように印刷媒体の雑誌を多く購入・保管していますが、当校ではPubMedや医中誌といったデータベースの他、数年前より電子ジャーナルも多く取り扱うようになりましたので、教職員や学生は、学内LAN接続であれば、契約している電子ジャーナルに自由にアクセスできます。図書館のWebサイトはそのガイドをします。



— 図書館の Web サイトには電子ジャーナルやデータベースといった情報が充実していますね。利用状況はいかがでしょう。

電子ジャーナルは歯学の他、医療やバイオケミカル、生命科学に関する雑誌など幅広く契約をしています。歯・口腔が全身疾患や健康と深く関わりがあるため、関連分野の文献もできるだけ収集する方針です。

利用者へはデータベース講習会の中の1つとして、電子ジャーナルの使い方を説明しています。PubMed などメジャーなデータベースからの連携の他、Google Scholar からの連携などで、認知度も増しているようです。電子ジャーナルの利用は伸びていますね。図書館への問い合わせ内容を見ても、以前は所在確認などが多かったのですが、現在は実際に使ってみての質問が増えてきています。



— たくさんの利用者の対応や Web サイトの管理など、お忙しいと思いますが、スタッフの皆様の業務について教えてください。

職員は、正規職員4人の他に、派遣職員及びアルバイトがいます。

職員はそれぞれ担当が分かれています。資料入力には全員ができるようにしています。ILL を使用しての他館への依頼業務も多いです。夜間はアルバイトの人たちのみでの対応となりますが、特に業務に困ったりすることもないようです。これは、自動貸出機が普段から良く使われていること、電子ジャーナルが活用されていること、そして職員間での密な連絡を心がけているためだと思います。

Web でのサービスに力を入れており、本年10月には Web サイトをリニューアルしてさらに便利になったのですが、実際の図書館も来館しやすいような、居心地の良いスペースとなるよう心がけています。



— 落ち着いた館内には、本日も利用者が多く来館されていますね。情報館の使用感はいかがでしょう。

情報館を導入したのは1990年です。当時は大型コンピュータを利用したものが多かったので、当館の規模に合った、小回りのきくシステムを探していました。パソコンを利用したシステムということで、既に導入している図書館を見学させてもらい使い勝手など確認し、導入を決めました。

その後、サーバを導入しネットワーク化、徐々に情報館 WebOPAC や自動貸出機の追加と規模を拡大してきました。

情報館 WebOPAC はインターネット公開用サーバの管理の問題や予算の関係で、学内のみからアクセス可能としています。学外からの利用には CiNii を使用してもらうよう案内をしていましたが、やはり不便なようでしたので、今回 OPAC 公開サービスを申し込み、図書に関しては学外からも検索可能にしました。

情報館導入時は、書誌情報は必要最小限のみの入力としていましたが、情報館のバージョンアップで項目も増え、次第に入力する項目も増えてきました。ISBN の桁数増加や URL 入力の他、自由に使用方法を決められる項目が増えたのは助かります。



— 長くお使いいただきましてありがとうございます。皆様のお声を参考に、よりよいサービスを提供できるように心がけてまいります。

伝統ある貴校のますますのご発展をお祈り申し上げます。本日はお忙しいところにあつたありがとうございます。

日本歯科大学生命歯学部図書館

The Nippon Dental University School of Life Dentistry at Tokyo, Library

〒102-8159 東京都千代田区富士見1-9-20

TEL 03-3261-8931

<http://www.tky.ndu.ac.jp/~library/>